

防衛省改革会議（第三回） 議事要旨

1. 日 時： 平成 20 年 1 月 9 日（水） 17:30 ～ 19:00
2. 場 所： 首相官邸 4 階大会議室
3. 出席者： 別紙参照
4. 議 題： 「厳格な情報保全体制の確立」について

5. 議事概要

- (1) 増田防衛事務次官から、検討事項に関する事実関係等につき、説明を実施。防衛省の説明を踏まえ、柳澤内閣官房副長官補及び三谷内閣情報官から説明を実施。
- (2) 意見概要
委員から概要以下の発言がなされた。

（情報保全対策の在り方）

- 防衛省の秘密保全制度は、他の役所と比して整っていたとしても、魂が入っていないということではないか。隊員一人一人に情報保全の意識を浸透させることは一番難しいが、この問題に継続的に取組み、組織文化レベルまで情報保全意識を定着させることが必要。
- 厳格な情報保全体制を徹底させるためには、総合力として効果を上げることが可能となるような措置を、継続的に講じていくことが必要。
- 対策が定着するまでの間の措置として、摘発体制等を強化していくことが必要。警察の協力を得て、調査や捜査のノウハウを取り込みながら、防衛省監察本部や自衛隊情報保全隊、警務隊等の教育体制の見直しを行うことも必要ではないか。
- 自衛隊は命令一下で動く組織であり、命令で一斉に行動することは可能であるが、隊員の意識は一朝一夕に変わるわけではないため、継続的な取組みが必要。
- 現状では、部隊が何をすべきか落ち着いて考える間もなく幾つかの対策の指示が下りているのではないか。対策を浸透させるためには、その内容が部隊に受け入れ可能な施策であり、かつ、これまでの施策と一貫したものであることが必要。また、その施策は、隊員にとって分かり易い、簡潔なものとすべき。
- 組織全体に網をかけたような対策を何度も行えば、現場のやる気は低下するため、25 万人の隊員全てを対象とした対策と、研修等の措置を集中的に講じる必要がある

層への対策とを区分して考えることが必要ではないか。

(秘密の指定・取扱い等について)

- 防衛省の秘密件数は多いのではないか。情報公開の必要性も踏まえ、秘密として指定するものを厳選する必要があるのではないか。
- 機密や極秘といった高いレベルの秘密に接することが可能な者は少数と思われるが、そのような者のアクセス権をどのように厳格に管理するかを考えることが必要。
- 我が国においては、秘密を取扱う者の適格性の確認を徹底して行うことは困難が伴うものであると思われるが、適格性の確認はしっかりと行うべき。

(情報セキュリティ対策 (IT 関連) について)

- IT 技術の進歩を考慮すれば、現在のセキュリティ対策だけでは、すぐに不十分になる可能性が高いため、将来の IT 技術の進歩を見積もり、それを踏まえた先進的な対策を講じることが必要。また、広い意味での安全保障政策として、この問題に取り組んでいくことも必要ではないか。
- 現代のコンピューター社会では、秘密ということでネットワークにアクセスすることを禁じられると、何とかしてアクセスしようとする動機を持つ者も出てくる。この点に留意した対策を考えることが必要。

(その他)

- 偉い人のリークで記事が出る事例も見受けられるが、上層部がしっかりと情報保全をしなければ、下の隊員に情報保全を徹底することは難しいのではないか。
- 自衛隊の部隊の小さな動きや人の言動を断片的に組み合わせることで事前に情報が明るみになることもある。このような場合の対策が難しい。
- 外国にある情報が渡ったとき、どの程度、我が国の安全保障が毀損されたのかという事実をトレースする必要があるのではないか。
- 外国に情報が渡ることによってどれだけ安全保障を害したかという関連では、イージスの情報漏えい事案について言えば、およそイージス・システムを有している国すべてに迷惑をかけているという認識を持つことが必要。
- 国会の秘密会のあり方については、改革会議のどこかで議論すべきではないか。
- 防衛省改革会議で議論すべきことではないが、外国では秘密を漏洩すれば、最も重い刑は死刑である。他方、我が国の法制度について言えば、防衛関係の秘密漏えいに関する法定刑は1年、5年、10年の3つであり、これで良いのかと思っている。

(以上)

【別紙】

防衛省改革会議（第三回） 出席者

○ 「防衛省改革会議」メンバー

五百籬頭 眞	防衛大学校 学校長
小島 明	社団法人日本経済研究センター 会長
佐藤 謙	財団法人世界平和研究所 副会長
竹河内 捷次	株式会社日本航空インターナショナル 常勤顧問
田中 明彦	東京大学大学院情報学環 教授
御厨 貴	東京大学先端科学技術研究センター 教授

【座長】南 直哉 東京電力株式会社 顧問

○ 政府側

町村 信孝	内閣官房長官
石破 茂	防衛大臣
岩城 光英	内閣官房副長官
二橋 正弘	内閣官房副長官
柳澤 協二	内閣官房副長官補
三谷 秀史	内閣情報官
増田 好平	防衛事務次官
山口 英	内閣官房情報セキュリティセンター 情報セキュリティ補佐官